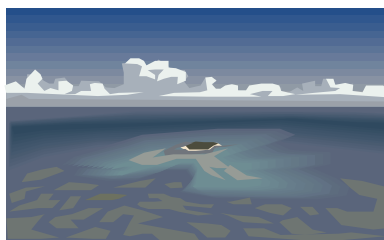


北東アジア青少年環境保全リーダー会議

东北亚地区青少年环境保护带头人研修会

**Зүүн хойт Азийн залуучуудын орчин ахуйн хамгалалтын
удирдагч хурал**

**О проведении Симпозиума юных лидеров по вопросам
экологии в регионе Северо-Восточной Азии**



テーマ「海洋環境保全（海洋ごみ）」

**2007年8月11日（土）～12日（日）
富山県中新川郡立山町**



この事業は、地球環境基金の助成を受けて実施しています。

北東アジア青少年環境保全リーダー会議 プログラム

8月10日(金)

- 8:00～18:00 海外参加者来日(立山青少年自然の家へ移動)
打合せ、資料ファイル等の提出、使用機材の確認など
- 18:00～19:00 夕食(青少年の家 食堂)
宿泊(青少年の家 宿泊棟)

8月11日(土)

- 7:00～8:00 朝食(青少年の家 食堂)
- 8:30～9:00 参加者登録、資料配布、通訳設備確認
- 9:00～ 北東アジア青少年環境保全リーダー会議開催(エコスクール館 学習室)
- 9:00～9:10 開会挨拶
..... 富山県生活環境文化部長 林 時彦
- 9:10～10:35 活動発表
- ・C.C.Z.海岸清掃(富山県) 【7】
 - ・ヴァーノ地域がヴァーノ入江における海水と海岸調査(川口地方) 【8】
 - ・天然記念物第431号シドゥリ海岸の砂丘の生態環境調査(忠清南道) 【9】
 - ・2006年度遼寧省4都市における海辺の漂着物調査(遼寧省) 【10】
 - ・エレナ(Elena)島における環境監視(沿海地方) 【12】
 - ・海洋環境の調査保護活動(江原道) 【14】
- 10:35～10:45 休憩
- 10:45～12:30 活動発表
- ・全校で取り組む省エネ・環境保全活動 4年間の歩み(富山県) 【15】
 - ・クラスナヤ川環境現状調査(川口地方) 【16】
 - ・自然と共に生きる洪東の人々(忠清南道) 【17】
 - ・私たちは将来ここに暮らす。(沿海地方) 【18】
 - ・様々な自然にやさしい体験活動を通じての環境保全の生活化(江原道) 【20】
 - ・日本海沿岸における人工漂着物調査(川口地方) 【21】
 - ・JUNEC(ジュネック)フォーラム2004～2006 【22】
- 12:30～13:30 昼食(青少年の家 食堂)
- 13:30～14:30 富山市岩瀬浜へ移動
- 14:30～16:30 野外実習:海洋ごみの調査実習(岩瀬浜、エコタウン交流推進センター)
.....財団法人環日本海環境協力センター 藤谷 亮一 主任研究員
.....氷見市海浜植物園 後藤 千代子 園長
- 16:30～17:30 青少年の家へ移動
- 17:30～18:30 夕食(青少年の家 食堂)

18:30～20:00 交流会（青少年の家）
20:00～ 入浴、自由交流、就寝準備
宿泊（青少年の家 宿泊棟）

8月12日（日）

6:45～7:45 朝食（青少年の家 食堂）
8:30～ 北東アジア青少年環境保全リーダー会議開催（エコスクール館 学習室）
8:30～9:30 環境学習：「北東アジア地域の海洋ゴミの現状と課題について」 【23】
……講師 馬場 典夫（Norio BABA）NOWPAP/RCU 富山事務所 行政担当官
9:30～10:00 意見交換 今後の自分たちの取り組み方針について
10:00～10:25 「富山の誓い」宣言 とりまとめ 【33】
10:25～10:30 閉会挨拶
……財団法人環日本海環境協力センター専務理事 三田 哲朗
北東アジア青少年環境保全リーダー会議閉会
11:00～13:00 立山室堂へ移動
13:00～13:30 昼食（弁当）
13:30～16:00 環境視察（立山）
場所 立山自然保護センター、室堂周辺
「立山における自然保護の取り組みと環境関連施設について」
16:00～18:00 青少年自然の家へ移動
18:30～19:30 夕食（青少年の家 食堂）
19:30～ 入浴、自由交流、就寝準備
宿泊（青少年の家 宿泊棟）

8月13日（月）

7:30～8:30 朝食（青少年の家 食堂）
8:30～9:00 部屋の清掃、退所準備
9:00～ 青少年の家退所（空港、富山駅等へ移動、解散）

C . C . Z . (シー・シー・ゼット) 海岸清掃

- 1 . 自治体名 富山県
- 2 . 発表者名 氷見市立灘浦 (なだうら) 中学校
- 3 . 活動名 C . C . Z . 海岸清掃
- 4 . 活動期間 2007 年 6 月 29 日
- 5 . 活動場所 富山県 氷見市 C.C.Z.小境 (こさかい) 海岸
- 6 . 活動参加人数 71 名 (全校生徒及び教職員)
- 7 . 活動を始めた経緯

生徒会行事として始められた小境海岸の清掃を 1992 年に C.C.Z.海岸清掃とし、20 数年間継続して、毎年 6 月下旬から 7 月上旬に活動している。

地域に誇りと愛着をもち、自分たちの手で美しい郷土の自然を守っていこうという思いを込めて、全校生徒で海岸に流れ着いたゴミ等を回収したり、砂浜に穴を掘って海藻を埋めたりする作業をしている。

8 . 発表要旨

C.C.Z.小境海岸は、夏の海水浴シーズンを中心に多くの人でにぎわう。生徒たちにとっても、登下校や休日などのひとときを過ごす憩い (いこい) の場となっている。全校生徒での海岸清掃のねらいや活動内容、成果と課題などを発表し、これからも身近な海を守っていこうとする決意や提言をまとめる。

ヴァーニノ (VANINO) 地域ヴァーニノ (VANINO) 入江における 海水と海岸調査

- 1 自治体名 ハバロフスク地方 (Khabarovsk Territory)
- 2 発表者名 シェゴリコフスキー ヴラディスラーヴ (SHEGOL KOVSKY VLADISLAV)
市立第 7 総合学校
- 3 活動名 ヴァーニノ (VANINO) 地域ヴァーニノ (VANINO) 入江における海水と海岸調査
- 4 活動期間 2006 年 7 月
- 5 活動場所 ハバロフスク地方、ヴァーニノ (VANINO) 地域ヴァーニノ (VANINO) 入江
- 6 活動参加人数 5 名
- 7 活動を始めた経緯
企業や人間活動による海岸と海水への影響評価
- 8 発表要旨
 - ア) 調査地の海岸や海水に悪質影響を与える企業を調査
 - イ) 調査地で発見された人工廃棄物を確認
 - ウ) 調査海岸浄化活動
 - エ) 住民への環境を大切にする呼びかけ。

天然記念物 第 431 号 シンドゥ里 (sindu-ri) 海岸の 砂丘の生態環境調査

- 1 自治体名 忠清南道 (Chung Cheong Nam-do)
- 2 発表者名 泰安 (Taeon) 中学校 科学サークル ヘタミ (Hetami)
李乾鎔 (Lee Gun-yong)、趙偉翔 (Jo Wi-sang)
- 3 活動名 天然記念物 431 号 シンドゥ里 (sindu-ri) 海岸の砂丘の生態環境
調査
- 4 活動期間 2005 年 5 月 ~ 2007 年 6 月
- 5 活動場所 忠清南道 泰安郡 (taeon-gun) 遠北面 (wonbuk-myeon)
シンドゥ里 (sindu-ri) 海岸砂丘一帯
- 6 活動参加人数
 - 1) 2005 年 : 17 名
 - 2) 2006 年 : 19 名
 - 3) 2007 年 : 23 名
- 7 活動を始めた経緯
 - 1) 2005 年、科学サークルヘタミ (Hetami) の創立後、科学文化財団が主催するオンライン探求大会に参加(干潟調査および周辺の科学者を訪問)
 - 2) 2006 年、全国科学サークル発表大会参加後、地元にある生物資源の宝庫である天然記念物 第 431 号 シンドゥ里 (sindu-ri) 海岸の砂丘の生態環境を調査し、保全の必要性を認識

8 発表要旨

区分	詳細内容
海岸砂丘の特徴	気候及び地理的な特徴、砂丘の利用
	生物的特徴(動・植物分布及び個体数)
	砂丘内トゥウン (Tuung) 湿地の生態特徴
集中探求	アリ地獄の物理的特性及びアリ地獄の生態探求
環境保全	ヘタミ (Hetami) 環境保全事例

2006 年度遼寧省内の 4 都市における海辺の漂着物調査

- 1 自治体名 遼寧省 環境保全ボランティア連合会
- 2 発表者名 範天嬌（中国遼寧省実験中学学生）
李放（中国遼寧省瀋陽市東北育才学校学生）
（両名とも、遼寧省環境保全ボランティア連合会会員）
- 3 活動名 2006 年度遼寧省内の 4 都市における海辺の漂着物調査。
- 4 発表要旨

本日、私たちは、遼寧省環境保全ボランティア連合会を代表して発表できることを、とても嬉しく思います。私たちは、2006 年に実施した、遼寧省の 4 都市における海辺の漂着物調査活動の状況について、主に紹介します。

一、 調査活動の経過

環日本海環境協力センターのご指導のもと、2006 年 9 月 16 日～10 月 20 日までに、活動拠点として、大連市旅順口区北海海水浴場、大鹿島海水浴場、錦州開発区海水浴場ならびに葫蘆島開発区海水浴場の 4 つの海水浴場を、調査実施に関連する条件にもとづき、選択しました。私たちは、晴天の時を選び、調査に参加する環境保全ボランティアを構成し、共に、海辺の漂着物調査活動を 4 回行いました。のべ参加人数が、240 名となりました。

調査は、三段階にわたって行いました。第一段階では、調査区画を設定します。予定場所に到着後、目立つ色の幅広のロープと杭等の道具で 4 つの 100 m²の調査地点を設定します。第二段階では、調査、分類をします。ボランティアが、4 つの調査地点で海洋ゴミを拾い、その拾ったゴミを、プラスチック、金属等の種類に分類し、電子ばかりで重さを計量し、記録します。第三段階では、分析してとりまとめを行います。分析結果にもとづき、合理的な提案をし、関連の部門に報告します。

二、 調査分析に関する結論

収集した海洋漂着物を分類、整理してから、私たちは海洋ゴミの種類は、プラスチック類、ガラスや陶磁器類、金属類、紙類、布類、発泡スチレン類やゴム類があり、そのうち、主な海洋ゴミはプラスチック類であることが分かりました。

海岸に漂着した大部分の漂着物は、軽くて、自然環境において長期間分解されにくいプラスチック性のゴミのため、大量のプラスチック類のゴミは（再び）海洋へ流されると推測できます。これらの海洋ゴミは、人がしっかり取り除かなければ、ずっとなくなることはなく、海洋生物の生存環境と海洋漁業の生産等に深刻なマイナス影響をも及ぼします。また、プラスチック性のゴミは、水鳥や魚類等の水生生物に食物として誤飲されれば、消化することができないばかりか体外に排出することもできず、魚類や水鳥等は死に至ります。捨てられた釣り糸や魚網が漁礁や岩礁にからまり、魚を捕まえてしまうことにもなります。非分解性の漁具やプラスチック性ゴミが海洋環境中を漂い、漁場が汚染されてしまいます。ゴミが船舶のスクリューにからまりついたり、取水口をふさいだりしてエンジンを故障させます。さらに、ガラス類のゴミは、海洋条件や気象等の要因の影響を受け、一定の期間が経った後、細かく砕かれてから砂浜の中に埋まり、分解されずにどんどん多くなって蓄積されるため、観光客の潜在的な脅威ともなります。

調査を通して、ゴミの数量と調査した住民や観光客の人数ならびに調査した環境管理の規範化程度とは直接の関係があることが分かりました。すなわち、ゴミの数量と住民ならびに

観光客の人数は比例し、調査した環境管理の規範化程度とは反比例しています。収集したゴミは、生活系のゴミが主であり、発生した主な原因としては、沿岸地域の住民、海辺を訪れる観光客、出漁する漁民などに環境保全の意識が足りないため、生活系のゴミがみだりに廃棄されたことによるものです。地方環境衛生管理部門のゴミ清掃、処理等が適宜されなければ、すぐに集中的にゴミを収集することはできません。また、集中的に収集した生活ゴミは、きちんと処理されなければ、二次汚染を引き起こすでしょう。

このため、私たちは海洋汚染の危害性を大々的に宣伝し、公共の海洋環境保全意識をより一層高め、関連部門の責任意識を強化しなければなりません。また、海洋ゴミは、風や水に流されて漂流するため、越境汚染を引き起こします。隣接する国や地域間で共同モニタリングネットワークを構築し、海洋環境保全業務を共に遂行しなければなりません。

三、 活動成果

私たちは海辺の漂着物の調査活動を通して、海岸のゴミの種類、数量、発生原因を分析した結果、沿岸地区の住民（観光客や漁民を含む）の悪い生活習慣が引き起こす海洋環境危害は深刻だと思いました。大規模な、環境保全ボランティア、特に青少年ボランティア活動を行い、新聞やテレビ等のマスコミが、活動の内容や意義を踏み込んで報道すれば、参加者にとってのみばかりでなく、社会の多くの人々にとっても、環境教育の場となり、遼寧省において良い役割を果たします。民間の力を利用して環境保全を宣伝することにより、関連する政府部門の業務を効率的に推進することもできます。

エレナ (Elena) 島における環境監視

- 1 自治体名 沿海地方 (Promorsky Territory)
- 2 発表者名 キレーエフ P. A. (Kireev P. A.)
シコトフスキー (Shkotovskiy) 地方アニーシモフカ村 (Anisimovka)
第 28 総合学校
- 3 活動名 エレナ (Elena) 島における環境監視
- 4 発表要旨

*人間は自然の王と呼ばれているが、
自然を治めるために必要な知恵は、
自然からもらうものではない。
経験を重ねてためるべきものです。*

N.I. Lobachevskiy

この言葉は 150 年前の格言です。

当時、有名な哲学者のこの言葉は誰も理解できなかった。理解できなくて、忘れてしまった。

人間の手に自然に悪質な影響を与えるものがある現在は、この言葉の意味がやっと伝わってきた：自然を支配するのではなく、自然と仲良くする、自然法を破って行動するのではなく、自然法に従って行動する、自然をやさしく、傷をつけないように取り扱う。

これはロバチェーフスキー氏が我々に伝えたかったことです。

自然はいきいきしているとても敏感なもの、私たちの一番軽い行動でも直ぐに反射されま

す。
私たちの今の行動によって将来の将来に残す自然の状況が決まる。

有名なルスキー (RUSSKIY) 島は巨大ピョートル湾 (PYOTR VELIKIY) (日本海) に位置するエレナ島は、ルスキー島のもっともロマンチックなところで毎年ウラジオストク市民や観光客の中で人気を高めている。入港に便利な数々の入江、市からの距離が短いこと、ウラジオストク保塁 (ホルイ) の歴史的な観光スポット、豊富な海の幸などが人気のもとである。

近年の観光客の低い環境知識のため、あっちこち捨てられた数々の袋や割れたビン、折れた木の枝などが見られるようになった。

この環境問題の解決と青少年の環境啓発に努める一つの事業例は、ウラジオストク市の NPO ロシア緑十字環境教育研究室が実施している「継続環境保全プロジェクト『エレナ島における環境監視』」である。

島の入江での環境監視を、環境学者スメターニン・ヴィクトルとスメターニナターリアが考えて、1998 年に初めて監視が実施されるようになった。実施以来観光客に踏み潰された入江の美しい緑が回復し、ワイルドローズなど野生の花が咲くようになった。

現在、エレナ島の第 9 号入江は巨大ピョートル湾でもっともきれいな入江になった。

市民環境監視活動には、沿海地方中の教師やジュニアナチュラリストが参加している。活動は、地元の森林管理局でスケジュールを一度確定してから行われる。

監視されている南・南西部の海岸と森林の総面積は 2 km²で、環境監視活動は極東海洋基金、ロシア連邦就職管理局、エコツーリズム会社パシフィックインツアー (PACIFICINTOUR)、環境会社トランス・エコ (TRANS ECO) の支援によって行われている。(なお、調査研究

に関するコンサルティング業は植物公園、自然・文化遺産保護管理センターによって行われた。))

環境監視をする管理グループはほとんどノーオスフェーラ「NOOSFERA」エコクラブのメンバーで、事務局が24時間営業テント街に位置し、2004～2007年には10～15日間程度環境監視活動を実施していた。

環境監視をする管理グループの1日はスケジュールによって決まっており、うち毎日4時間は監視面積の改善、また3時間は調査研究に費やされている。

活動内容は、明るい内に海岸、森林、海を監視し、到着する観光客にマナーを説明し、マナーが守られるように監視するとともに、違反、変更について記録する。

また、毎日、朝と晩、海岸でゴミを拾う。拾った、または観光客が持ってきた生活ごみは、プラスチック製の袋に入れ、次に環境会社トランス・エコ(TRANS ECO)の船で焼却所に運送するため、指定された場所に収集される。

森林法違反を発見した場合、監視団のリーダーは書類を作成し、プロジェクトのリーダーに対策を採るために渡す。違法な狩などについては、詳細に記録し、連邦機関に通報する。

各団の監視結果について報告書を作成し、毎年11月30日までNPOロシア緑十字環境教育研究室に提出する。

私は監視団で活動した時、森林法違反3件、海洋法違反7件、違法漁業4件を見つけた。

強い海嵐の後には、海岸に漂着した200個のウニと300個のヒトデを海に返した。

エレナ島第9号入江のユニークなエコシステムを見て、私たち生徒は、この美しい自然、きれいな海と独特な動・植物界の保全方法を考えた。

まず、私たちは、環境保護プログラムを作成する前に、この環境への人間による負担を把握しなければならないと思い、私たちの監視団は環境モニタリングと海岸環境調査を実施した。調査対象項目は、地形、植物、動物、水質、土壌、エネルギー使用量、許可と違法漁業量、海ごみ調査などである。

調査結果によって、エレナ島第9号入江のエコシステム修復には、下記の対策が必要と判断した。

1. 漁業を禁止すること
2. 環境保全事業を継続的に行うこと
3. もっとも人工の影響に弱い植物の苗を植えること

2004年には、環境監視団に参加した経験を地元の環境保護に活用させることができた。その年、私たちは、アニーシモフカ村に400株の野生蔓植物を植えた。

環境監視団は生徒にも観光客にも非常に良い体験であると思っている。次回参加する時、捨てられたごみによって発生する有害物質の人間へ影響について調査したいと思う。

海洋環境の調査保護活動

- 1 自治体名 江原道 (Gang Won-do) 東海市 (Donghae-si)
- 2 発表者名 墨湖 (Muk-ho) 中学校 金スンジュン (seungjun)
- 3 活動名 海洋環境の調査保護活動
- 4 活動期間 2007年 3月～2007年 7月
- 5 活動場所 望祥 (Mangsang) 海水浴場と於達(eodal)港口及び ゾンチョン(jeoncheon)

6 活動参加人数 650名 (全校生と指導教師)

7 活動を始めた経緯

墨湖中学校においては、最近海洋汚染が深刻になっていることから、海洋環境保全の重要性の理解と環境保全実践の必要性に対する意識を高めるために海洋ごみの調査活動を実施した。

8 発表要旨

活動内容紹介

ア. 海洋環境保全の深刻性及び海洋浄化活動の実施

学校では環境体験活動の大部分が河川や海で行われていて、海洋環境の重要性と実践意識を高めるきっかけを作るために、海洋汚染の深刻性を認識して海洋保全活動を実施した。

イ. 海洋浄化活動実施以後の海洋ごみの発生源の調査

海洋環境の浄化活動の実施以後、海辺の漂着物調査をした結果、隣接している海でも似たような結果が出た。この結果は7種類に分類することとしており、ごみをプラスチック類、金属類、紙類、布類、ガラス類、発泡スチレン類、ゴム類など7種類で分けて調査した。

ウ. 海洋環境保全の実践方策

- 1) 海洋汚染の深刻性を認識し、自ら海洋保護活動が出来るように環境意識を持って継続して実践する。
- 2) 海洋ごみを減らすために海水浴場を訪れる観光客を対象に“ごみを出さない”環境キャンペーンを実施する。
- 3) 海洋ごみを無くすために定期的に海洋環境浄化活動を実施する。

全校で取り組む省エネ・環境保全活動 4年間の歩み

- 1 自治体名 富山県
- 2 発表者名 上市町立上市中学校
- 3 活動名 「上市から世界へ発信 未来を築く小さな一歩」
- 4 活動期間 平成 2004 年 4 月～
- 5 活動場所 上市中学校および上市町内、県内、国内
- 6 活動参加人数 全校生徒約 610 名 4 年間延べ約 1,200 名 県、町植樹担当者約 10 名
- 7 活動を始めた経緯

2004 年度から、生徒会を中心に「地球環境を守るためにできること」をテーマに、国際理解学習及び省エネ学習を連携しながら環境教育を進め、その活動の場を家庭や地域へと広げている。世界に目を向けながらも、絶えず「今、自分たちにできること」は何かを考え、実践し続けている。

8 発表要旨



- 2004 年 校庭の樹木のCO₂吸収量の調査
家庭での電気使用量調査、電化製品の使用電力量調査
江戸時代との比較
- 2005 年 新聞社主催の環境活動に参加、熊の危機を実感
職場体験学習で第一次産業に参加
全校で、全家庭で省エネ活動に取り組む。(学校使用電気量前年度比 2.7%減、家庭1軒あたりの省エネ効果、夏 1,894 円、冬 3,411 円。給食の平均残食率 1.4%)
- 2006 年 地元の山に植樹
校内・町内・県内・修学旅行先の東京での取り組みの発表
- 2007 年 植樹活動の継続 ひまわりの種からバイオ燃料を作る取り組み開始

クラスナヤ川 (KRASNAYA) 環境現状調査

- 1 自治体名 ハバロフスク地方 (Khabarovsk Territory)
- 2 発表者名 アブデーエヴァ アリョーナ (ABUDEEVA ALYONA)
市立第 53 総合学校
ハバロフスク地方環境・生物学研究センター
- 3 活動名 クラスナヤ川 (KRASNAYA) 環境現状調査
- 4 活動期間 1999 年 ~ 2006 年
- 5 活動場所 ハバロフスク地方、ハバロフスク市、クラスナヤ川 (KRASNAYA)
- 6 活動参加人数 生徒 500 名以上
- 7 活動を始めた経緯
クラスナヤ川 (KRASNAYA) の環境状況悪化、住民のクラスナヤ川 (KRASNAYA) の環境に関する知識不足
- 8 発表要旨
 - ア) 目的 : ハバロフスク市南部の水質・大気環境改善
 - イ) 課題 : クラスナヤ川 (KRASNAYA) の生態を研究しながら自然環境知識を高める。
自然環境モニタリング方法を見習う。
川を浄化し住民の環境保全に関する知識を高める。
 - ウ) 小河川への注目の原因は主に悪化する環境現状にある。
 - エ) 環境モニタリングを実施して、浄化前後の水質評価が行った。
 - オ) 100t 以上のごみを収集した。
 - カ) 住民アンケート調査を実施し、結果をマスコミを通じて発表した。

自然と共に生きる洪東の人々

- 1 自治体名 忠清南道 (Chung Cheong Nam-do)
- 2 発表者 崔基賢 (Choi Ki-hyeon) 洪城 (Hong seong) , 洪東 (Hong dong) 中学校 3年
金智賢 (Kim Ji-hyeon) 洪城, 洪東中学校 2年
- 3 活動名 自然と共に生きる洪東の人々
 - 1) 洪東川の水質監視及びプルム (Pulmu) 学校前の山の保護活動
 - 2) 野生動植物保護活動
 - 野生花育てと植木鉢分け
 - ロードキル (Road-kills) 統計を通じて野生動物の出没頻度別に地域の調査表示板を設置
- 4 活動期間 2007 年 5 月 1 日から 2007 年 8 月 5 日
- 5 活動場所 忠清南道 洪城郡 (Hong seong gun) 洪東面 (Hong dong myeon)
4ヶ里 (ウンオル里 (Unwol-ri) , クジョン里 (Kujeong-ri) , パルゲ里 (Palgwe-ri) , シンギ里 (Singi-ri) 一帯)
- 6 活動参加人数 洪東中学校 1、2、3年生 124 名
- 7 活動を始めた経緯
洪東面の中心部を貫く洪東川の水質悪化による農業用水の使用適正に関する問題提起の状況と、洪東面クジョン里 (kuzong-ri) の裏山 (プルム (Pulmu) 学校の前の山) の損壊、放置が 5 年間以上続いている状況を見て活動を開始した。
- 8 発表要旨
 - 1) 定期的な水質検査を通じて洪東川の渇水期と洪水期の水質を比較し、洪水期における汚染物質の放流の有無を、肉眼での監視と水質検査を実施し、公開。
 - 2) 野生の花を普及するために、植木、鉢分け、種子受け取り作業など、1 人が 1 種の野花を育てる活動を実施。
 - 3) 洪東面クジョン里 (kujjeong-ri) の裏山が、5 年以上賃貸アパート建設敷地として毀損、放置されており、これに対する問題提起を通じて、できる限りの原状復帰のための世論調査を実施。
 - 4) 洪東面を貫通する地方道路約 3km を定期的に観察し、ロードキル (Road-kills) の写真収集や、一番発生頻度が高い地域に表示板を設置するなど、運転者等に注意を与える活動を実施。

私たちは将来ここに暮らす。

- 1 自治体名 沿海地方 (Primorsky Territory)
- 2 発表者名 コスチェンコ M. V. (Kostenko M. V.)
ハサンスキー (Hasanskiy) 地方ザルービノ (Zarubino) 村総合学校
- 3 活動名 私たちは将来ここに暮らす。

4 活動要旨

環境保全は現在最も重視されている課題である。人間による環境への影響は一方的で、自然を利用するという目的であり、これは自然のバランスを破壊する。

私たちは、沿海地方で最もきれいなところ、ハサンスキー (Hasanskiy) 地方ザルービノ (Zarubino) 村に住んでいる。この村の植物と動物界は、豊富でユニークなものが多い。

自然の美しさは、大都会から離れて初めて感じるようになる。

私たちの村は日本海クジラ湾の海岸に位置している。水は昔から人間を招く。きれいな入江と汚染されていない水はバケーションを過ごすために最適な場所、海底の環境も数多くの動物と植物がいて、美しく面白い。

しかし、近年、湾の発展・開発によって発生する汚染源が原因で、一部の地域の環境は悪化している。油の排出による有機汚染も少なくない。

村には海洋を利用する 2 件の企業、海洋資源採取・加工をする企業と海運企業がある。これらの企業もクジラ湾の環境に影響を与える。海洋資源を採取・加工をする企業は、汚染されている排水を海に流して海の環境を破壊する。海を利用する貨物船と客船からはペットボトル、使い捨て食器、紙類、木材ボックスなどのごみが発生する。

幸い、海洋環境には大型ごみの塊 (かたまり) が少なく、水は透明で今のところ海水浴も可能である。美しく、きれいな海岸は数多くの観光客を招く人気休息スポットであるが、隣の地方や市から来た観光客は美しい自然と海水浴を楽しんだ後、ごみの山、折った木の枝などを残している。

この自然環境破壊を見ながら、私たちの学校は部活活動として環境保全を選んだ。

学校の環境保全活動は下記の分野を含んでいる。

- 1 . 生徒、村の住民、観光客の環境啓発、環境保護宣言
- 2 . 環境保全事業の実施、対策

この課題を果たすために、学校で環境クイズ、環境保全新聞を発行し、環境保護宣言団を設立して住民に説明会を実施、環境啓発パンフレットを配布している。

住民の間で実施したアンケート調査の結果から、環境問題は興味深いことが明らかになった。

また、環境監視団を設立し、観光客の最も多い海岸とハスが咲いている湖の岸辺を監視している。

他にも、地方、地域、国際レベルの環境事業に参加している。環境保全に取り組んでいることから、2001 年に学校は「グリーン学校」と名づけられた。「グリーン学校」としても環境をテーマにした様々なイベントを実施している。

「私たちは将来ここに暮らす」事業

生徒、住民、保育園で説明会を実施し、環境啓発パンフレットを配布した。ザルービノ村とアンドレーエフカ村（Andreevka）で、WWF と村役場の支援を得て、子供たちと住民による海岸の掃除が行われた。村役場はごみを入れる袋などを提供し、ごみの運送を担当した。

「きれいな海岸」事業

海岸沿いを掃除するこの事業は慣行的になった。海嵐の後に漂着するビンや食器などのごみが非常に多い。

「海は愛情の場所」事業

観光客の最も多い夏に行われる観光客啓発事業で、ボランティア団体が海水浴場を回って、ごみを持ち帰るように呼びかける。

また、私たちは住民や村役場にリサイクルに取り組むように呼びかけている。既に学校では、生活廃棄物を様々な場面で使用している。例えば、ペットボトルで花瓶などを作っている。

学校では「海の日」、「クジラの日」、「鳥の日」、「アムールタイガーの日」、「土の日」、「地球環境の日」、「豹の日」などのイベントが実施されている。これらのイベントは楽しく、参加者も非常に多い。「海の日」を開催する前に学校内・住民内で海の知識に関するアンケート調査を実施する。この日のイベントに環境保全団体「虎」と「豹」の代表を招待する。この日の準備として海をテーマにした絵、詩、発表のコンテストを行い、海の現状について話し合う。

また、この日に、特別招待客によって海の環境、問題、解決方法に関する基調講演も行われる。

環境保全事業の実施、対策については、「貴重な植物の保護」、「海の生物多様性保護」、「クジラ湾の海岸浄化活動」、「廃棄物と私たちの健康」という事業を実施している。この事業は村における環境問題解決に努めている。

例えば、「廃棄物と私たちの健康」の事業は生徒や住民の参加によって実施され、「廃棄物がどのように人間の健康へ影響するか」という説明会が開催された。

また、地元の新聞を通じて、村をきれいに保つように呼びかけた。

このような事業は生徒と住民の環境啓発に努め、人の環境問題への認識を高めて、身近な自然環境を破壊から守る心を育てる。

環境事業の実施や準備にあたって、WWF、地方エコクラブ「ロトス」（Lotos）、「エンデミック」（Endemik）、「ラーデウガ」（Raduga）、環境保全団体「虎」と「豹」、様々な国内・海外環境組織から情報提供、参考文献の提供などの協力が得られた。

様々な自然にやさしい体験活動を通じての環境保全の生活化

- 1 自治体名 江原道 (Gang Won-do) 東海市 (Donghae-si)
- 2 発表者名 朴星彧 (Park Sung-wook) 墨湖 (Muk-ho) 中学校
- 3 活動名 様々な自然にやさしい体験活動を通じての環境保全の生活化
- 4 活動期間 2006年3月～2007年6月
- 5 活動場所 学校及び学校周辺(オダル(Odal)港、ゾン(Jeon)川等、東海市一帯)
- 6 活動参加人数 650名(全校生徒と指導教師)

7 活動を始めた経緯

海上交通の要地である東海市は、我々の生活空間としての海洋及び陸上環境として重要な意味があり、大切に利用し保護しなければならないにもかかわらず、環境を保護する事を疎(おろそ)かにしているのが現状である。そのため、環境体験教育を通じて、未来の主人公である学生たちに環境に対する正しい認識と生活態度が持てるように体験活動を中心とした環境教育をすることになった。

8 発表要旨

東海地域及び墨湖中学校紹介

活動内容紹介

- a. 環境保全意識を高めるための環境関連文芸行事及び環境写真展
環境に関連のある標語、4行詩、作文、漫画、環境写真展の行事を実施
- b. 環境保全意識を生活化するための自然浄化活動
学校内を含め学校周辺のオダル港及びゾン川周辺の浄化活動を定期的を実施

日本海沿岸における人工漂着物調査

- 1 自治体名 ハバロフスク地方 (Khabarovsk Territory)
- 2 発表者名 コストマーロフ セミヨン (KOSTOMAROV SEMYON)
太平洋国立大学 森林・公園学科
- 3 活動名 日本海沿岸における人工漂着物調査
- 4 活動期間 1997年～2006年
- 5 活動場所 ハバロフスク地方、ソヴィエーツカヤ・ガーヴァニー地域 (SOVETSKAYA GAVAN)、ヴァーニノ (VANINO) 地域、ムチケ (MUCHKE) 入江、トキ (TOKI) 入江、アンドレイ (ANDREY) 入江
- 6 活動参加人数 毎年 10～12人
- 7 活動を始めた経緯
「きれいな海を守りたい」
- 8 発表要旨
 - ア) 韓国、ロシア、日本は日本海沿岸に位置する国である。
 - イ) これらの国は、日本海の漂着物による汚染を心配している。
 - ウ) 上記の国の政府機関は、日本海の汚染現状を把握するために日本海沿岸漂着物調査を実施している。
 - エ) ロシアにおける日本海沿岸漂着物調査は 1997年 から年に一度実施されている。その漂着物調査には中学生、高校生が参加している。
 - オ) ロシアの海岸の漂着物による汚染はそれほど深刻ではなく、漂着物の量も増加していないことが明らかになった。

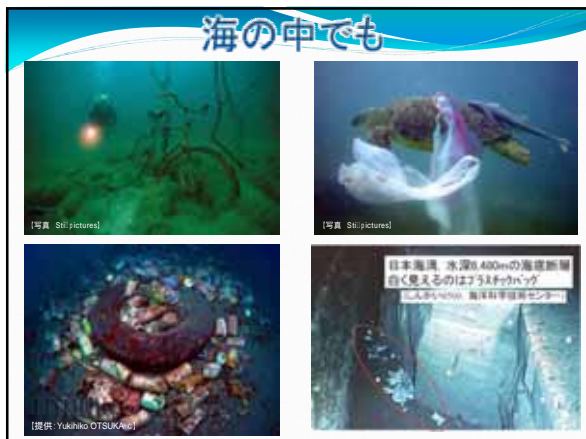
JUNEC (ジュネック) フォーラム 2004 ~ 2006

- 1 団体名 こども国連環境会議推進協会
- 2 発表者名 (所属名) 高橋 翔子、松島 彩夏、玉田 祥子
 (こども国連環境会議推進協会 略称：JUNEC (ジュネック))
- 3 活動名 JUNEC (ジュネック) フォーラム 2004 ~ 2006
- 4 活動期間 2004年8月 ~ 2007年3月
- 5 活動場所 東京都
- 6 活動参加人数 120名 (延べ720名)

7 活動をはじめた経緯

平成12年に国際連合大学をはじめとするアドバイザーコミッティを組織し、地球環境保全に関する諸活動並びに青少年の人材養成を計画的・継続的に行なうことを目的とする環境教育団体として設立。平成13年から地球環境基金などの助成を受け活動を開始。

平成16年からは、「国連・持続可能な開発のための教育の10年」に向け、地域におけるエコ・リーダーとして環境保全活動を行っている青少年に対し、「持続可能な社会」を提唱する各界の発信者の『環境行動・理念』を学ぶ機会を提供する「JUNEC フォーラム」を3カ年に渡り開催し、「持続可能な社会」の担い手となる次世代のリーダーとして実践活動が行える人材の育成を行っている。





海岸でのゴミ世界トップ10

-2005年国際海岸クリーンアップの結果から-

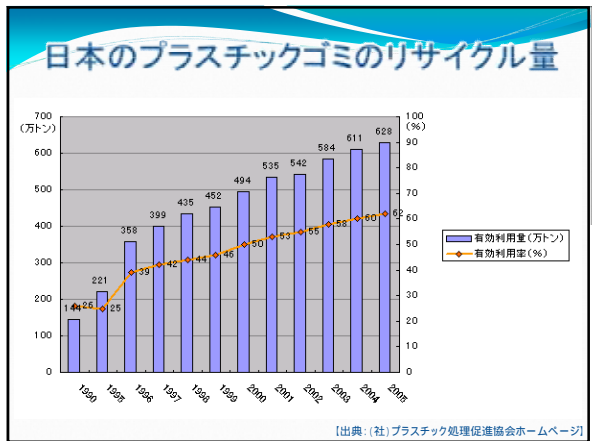
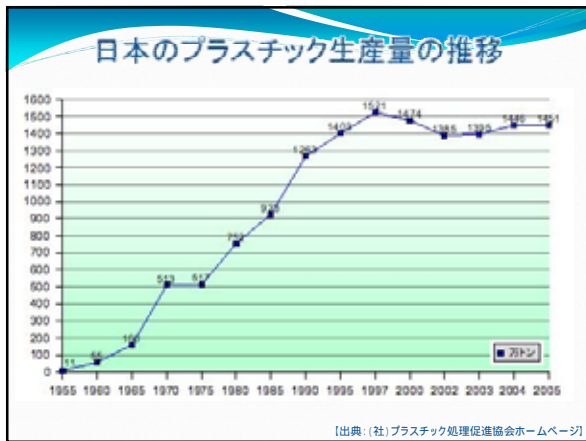
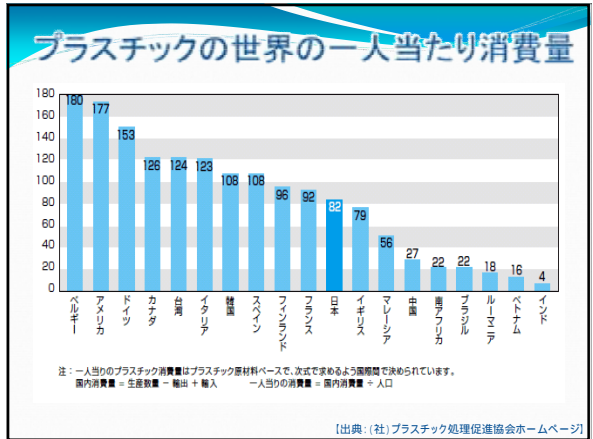
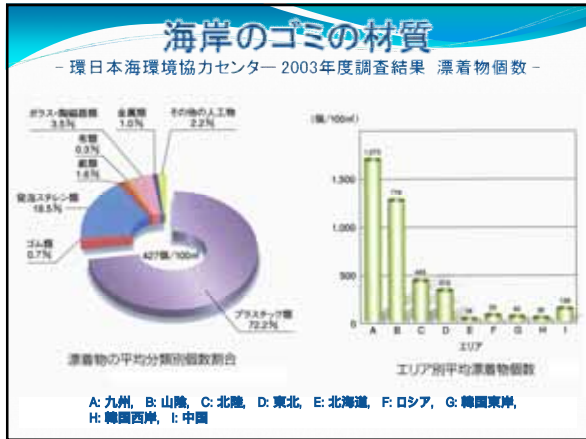
順位	品目	個数	%
1	タバコのすいがら・フィルター	1,629,769	26.4
2	キャップ・ふた	637,693	10.3
3	食品の包装・容器	621,981	10.1
4	飲料プラスチックボトル(20以下)	486,183	7.9
5	袋類	353,554	5.7
6	食器	315,084	5.1
7	飲料ガラスボトル	294,850	4.8
8	飲料缶	244,724	4.0
9	ストロー・マドラー	238,539	4.1
10	衣類	110,544	1.8
	合計	4,932,921	79.8



ゴミが自然にもどるまでの時間

品物	年数	品物	年数
ガラスビン	100万年	革製品	50年
釣り糸	600年	プラスチックの袋	10~20年
プラスチックボトル	450年	タバコのフィルター	1~5年
アルミ缶	80~200年	くつ下(毛織)	1~5年
発泡スチロールのブイ	80年	牛乳パック	3ヶ月
ゴムのくつ底	50~80年	りんごの芯	2ヶ月
ブリキ缶	50~80年	新聞紙	6週間
スチロールのカップ	50年	オレンジやバナナの皮	2~5週間

[出典 The Ocean Conservancy]



ハリセンボンの漂着

石川のニュース

◎ハリセンボン大量漂着 輪島・門前の海岸

輪島市門前町の海岸で一日までに、数センチから数センチに生息するフグの一種、ハリセンボンが大量に打ち上げられているのが見つかった。数は千匹以上とみられ、近くに住む男性(80)は「これほどたくさん見るのは初めてと驚いている」。

地方にすむハリセンボンは真冬ごろから、一部が村奥奥まで上るが、七尾市ののりま臨海公園水泳館は「固まって大量に打ち上げられるのは珍しい」としている。

同水泳館によると、今年は海水温がやや高めで推移しているため、ハリセンボンが生き残って凍り付いたところ、三十一日から寒波によるしけと海水温低下で一気に凍結した可能性があるという。

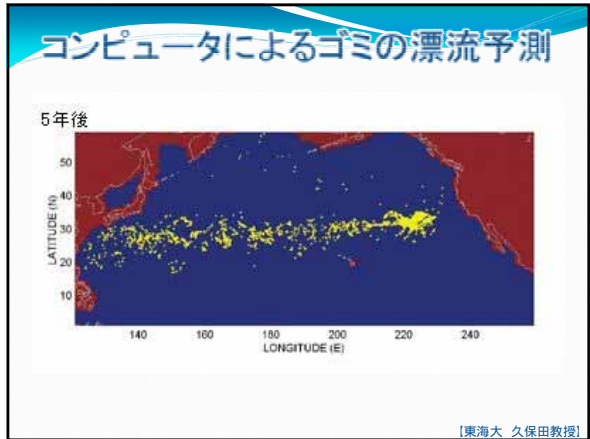
輪島市の河口付近には、漂着ゴミに交じって体長二〇センチほどの花巻しぐしが無数に並び、においに誘われたのか、ネコが走り回る姿も、住民は「一匹なら愛嬌(あいぎょう)があるけれど、多すぎて気持ち悪い。今年の冬は異常や」とおぼろげに話した。

【出典 北国新聞】

【出典 東海大学「海のはくぶつかん」2004年11月号】

【出典 「旅のスクラップ帳」】

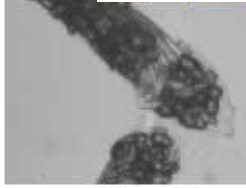







【東京海洋大 兼広教授】

動物プランクトン中のポリエチレン粒子 Polyethylene in Zooplankton


Plastic Particles in gut

Plastic in Fecal Pellet

1. Average particle size = 20 microns
2. Fresh zooplankton samples tested in a container

RTI (Dr. Anthony L. Andraday, APEC Marine Debris Seminar in Hawaii, 2004)

医療廃棄物の漂着状況調査結果 (海上保安庁 平成17年9月22日現在)



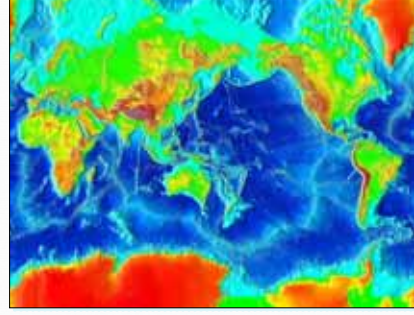
漂着地点	漂着物
秋田県	44個
山形県	270個
福島県	147個
宮城県	1,120個
岩手県	1,327個
青森県	700個
高知県	1,544個
高松県	15,100個
高松県	9,200個
山口県	80個
福岡県	27個
高松県	604個と700個
熊本県	300個
鹿児島県	200個
合計	21,950個と700個

漂着した血液入りの注射器



【出典: 新琴引浜通信ホームページ】

海の大きさ



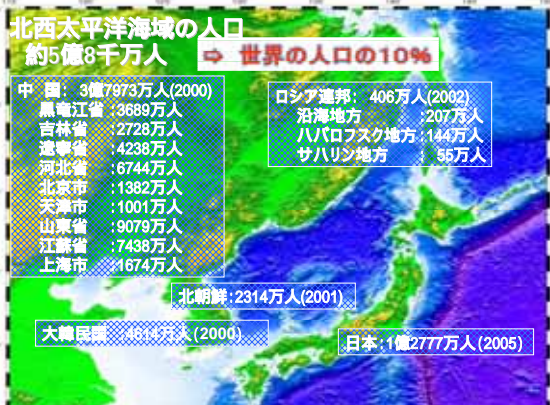
地球の表面積:
5億1千万km²

海全体:
3億6千万km²
(70.6%)

日本海(東海):
98万km²
(0.2%)

(出典 NGDC)

北西太平洋海域の人口 約5億8千万人 ⇨ 世界の人口の10%



中国: 3億7973万人(2000)

黒龍江省: 3689万人

吉林省: 2728万人

遼寧省: 4238万人

河北省: 6744万人

北京市: 1382万人

天津市: 1001万人

山東省: 9079万人

江蘇省: 7438万人

上海市: 1674万人

ロシア連邦: 406万人(2002)

沿海地方: 207万人

ハバロフスク地方: 144万人

サハリン地方: 35万人

北朝鮮: 2314万人(2001) 大韓民国: 4814万人(2000) 日本: 1億2777万人(2005)

海と私たちの生活

物を運ぶ



楽しむ



地球上の生物

陸上: 100万種類

海洋: 1,000万種類以上
(全生物重量の90%)

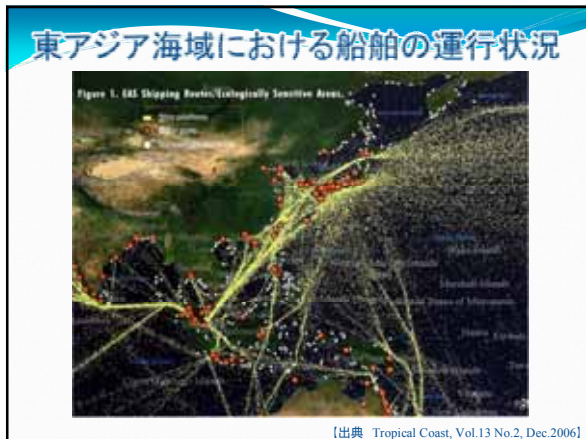


食べ物



エネルギー・資源



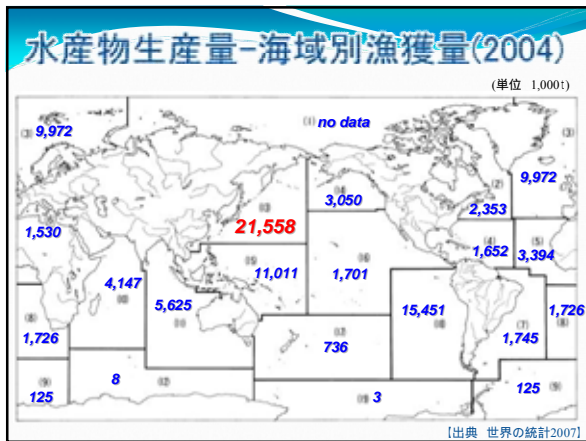


一人当たりの供給食料(2003年)

(単位 kg)

国名	穀類	米	小麦	砂糖類	いも類	豆類	野菜類	果実類	肉類	卵類	魚介類
日本	115.2	57.0	44.2	28.6	32.4	2.0	104.6	54.8	46.3	19.1	68.1
韓国	145.1	77.7	48.4	37.0	13.5	1.5	211.4	63.7	54.7	10.4	67.3
中国	158.0	78.5	61.4	8.2	74.5	1.2	270.5	49.7	58.1	18.3	32.1
ロシア	151.1	5.2	132.0	44.8	125.6	1.6	96.4	48.4	56.7	13.8	18.7

[出典 世界の統計2007]



国連環境計画

United Nations Environment Programme (UNEP)

背景 1972年6月の国連人間環境会議(ストックホルム)で採択された「人間環境宣言」及び「国連国際行動計画」を実施に移すための機関として、同年の第27回国連総会で設立された。

目的 国際連合のもとで、環境問題に関する諸活動の全般的な調整を行なうとともに、新たな問題に対しての国際的な取組を推進すること

事務局本部 ケニヤ, ナイロビ

事務局長 アッヘム・シュタイナー(2006年6月着任)

職員数 国際職員: 約502人(日本人職員: 17人 2005年12月現在)

地域海計画 (Regional-Sea Programme)

地域行動計画 (Regional Action Plan)

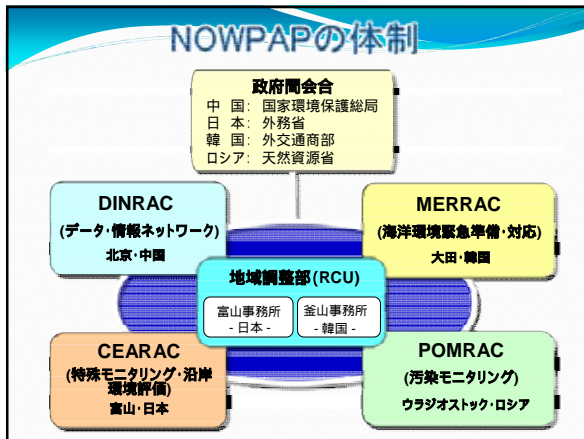
地域海計画

1974年に閉鎖性水域の海洋汚染の管理と海洋及び沿岸域の資源の管理を目的として提唱されたもの。
現在、世界18の地域海において策定された行動計画に基づき様々な活動が推進されている。

北西太平洋地域海行動計画の設立

Northwest Pacific Action Plan

- 1990年、第15回UNEP管理理事会において、北西太平洋域を含む未策定海域での地域海行動計画設立を検討するべきことが決議された。
- 1991年よりUNEP主催の専門家が開催され、**中国、日本、韓国、旧ソ連、北朝鮮**の5カ国により地域行動計画の設立について協議
- 1994年9月、韓国ソウルで開催された第1回政府間会合において、**中国、日本、ロシア、韓国**の4カ国(北朝鮮は欠席)



特殊モニタリング・沿岸環境評価 地域活動センター (CEARAC)

英語名称: The Special Monitoring & Coastal Environmental Assessment Regional Activity Centre (CEARAC)

設置場所: (財)環日本海環境協力センター (富山)

活動内容:

- 従来のモニタリング以外のリモートセンシング等を活用した特殊モニタリングの開発
- 沿岸環境評価、当面は赤潮/HAB



データ・情報ネットワーク 地域活動センター (DINRAC)

英語名称: The Data & Information Network Regional Activity Centre

設置場所: 中国国家環境保護総局 環境経済政策研究センター (北京)

活動内容:

- NOWPAP地域全体のデータ・情報システムを確立
- 総合的なデータベース作成
- NOWPAP地域内の海洋・沿岸環境に関するデータ・情報の交換について協力を推進、調整



海洋環境緊急準備・対応 地域活動センター (MERRAC)

英語名称: The Marine Environmental Emergency Preparedness and Response Regional Activity Centre

設置場所: 韓国海洋研究開発院(KORDI)/海洋システム安全研究所(テジョン)

活動内容:

海洋汚染の緊急準備・対応について、地域が効果的に協力できるよう、NOWPAP油流出地域緊急時計画などを担当




汚染モニタリング 地域活動センター (POMRAC)

英語名称: The Pollution Monitoring Regional Activity Centre

設置場所: ロシア科学アカデミー極東支部 太平洋地理学研究所 内 (ウラジオストック)

活動内容:

- NOWPAP地域内の海洋・沿岸環境モニタリングに関する活動の調整
- 大気から降下する汚染物質のモニタリング(ワーキンググループ1)及び、河川または直接流入する汚染物質のモニタリング(ワーキンググループ2)
- 沿岸域総合管理の推進
- 海洋環境白書の編集



NOWPAPにおける海洋ゴミの取り組み

2005年11月、日本の富山市で開催された第10回NOWPAP政府間会合で、海洋ゴミに関する取組の実施計画であるMALITAを採択。

- 1) 各国代表者の指名等実施体制の確立及び実施計画の策定
- 2) 情報及び理解の共有を目的としたワークショップの開催
- 3) 海洋ゴミに関する既存情報及びデータの収集
- 4) MALITAに関する情報ホームページの開設
- 5) 海洋ゴミに関する情報データベースの構築
- 6) 各国の法制度に関する調査・検討
- 7) 国家レベル・地域レベルの総合管理戦略の検討
- 8) 普及啓発活動の推進
- 9) 行政、NGO、研究者、市民社会等とのパートナーシップ構築
- 10) モニタリングプログラム構築
- 11) 各分野毎のガイドライン作成 (海運、漁業、観光等)
- 12) 地域アクションプランの策定

MALITAの成果

- ホームページの開設
(http://dinrac.nowpap.org/MALITA_Whatis.htm)
- パンフレットの作成
- 海岸におけるモニタリングガイドラインの作成
- ワークショップ・作業部会の開催
 - 1st NOWPAP Workshop on Marine Litter , Incheon, Korea, 8-9 June 2006
 - 1st MALITA Working meting, Incheon, Korea, 10 June 2006
 - International Coastal Cleanup & Workshop in Yamagata 2006, Sakata, Yamagata, 29-20 September 2006
 - 2nd NOWPAP MALITA Workshop , Toyama, Japan, 28-29 March 2007
 - 2nd MALITA Working meeting, Toyama, Japan, 30 March 2007
 - NOWPAP Marine Litter Prevention and Control Workshop and International Coastal Cleanup, Rizhao, China 27-28 June 2007



第1回 NOWPAP 国際海岸クリーンアップの開催


2006年9月29-30日, 山形県酒田市

- 各国の政府関係者、研究者、市民団体等からワークショップに200名、海岸でのICC活動に100名が参加)




第1回 NOWPAP 国際海岸クリーンアップの成果

➢ 各国が活動を積極的に推進していくことを表明
中国では以後、2006年中5回開催



NOWPAP 海洋ゴミの抑制と管理にワークショップ及び国際海岸クリーンアップ

2007年6月27-28日中国日照市

6月27日: ワークショップ及びポスターセッション開催
6月28日: 海岸にてICC活動実施。約200名参加
NOWPAP加盟国のほか、YSLME, COBSEA, PEMSEA等地域の国際プロジェクト代表者も参加








海のごみをなくすためには 《市民レベル》

海岸のそうじ

自然にやさしい生活

- ### わたしたちにできること
- ゴミが出さないような生活を行いましょう。
 - ゴミは持って帰りましょう。
 - ポイ捨ては止めましょう。
 - ゴミの分別・リサイクルを行いましょう。
 - ゴミにならないものを買うよう心がけましょう。
 - 清掃活動に参加しましょう。
 - 自然にやさしい生活を心がけましょう。
-



「富山の誓い」宣言（案）

北東アジア青少年環境保全リーダー会議に参加した私たちは、この会議を通して、参加者がそれぞれの地域で行なっている活動や、身のまわりの環境問題を話し合うことにより、海洋環境問題は、その原因が私たちの日常生活と密接な関係があることを理解した。

また、これらの問題を解決するためには、一部の国や地域だけの活動ではなく、より多くの地域で、より多くの人々が連携協力して取り組む必要があり、北東アジア地域の未来をより豊かなものにするためには、私たち青少年が地域におけるリーダーとなって積極的に取り組むことが重要であると認識した。

この会議に参加した私たちは、共有の財産である日本海・黄海の環境保全に対する共通の理解を深め、北東アジアの豊かな環境がいつまでも維持されることを願って、お互いを良きパートナーとして今後も環境保全のための取り組みに積極的に参加することを誓う。

2007年8月12日

北東アジア青少年環境保全リーダー会議参加者一同

Northwest Pacific Region Environmental Cooperation Center

5-5, Ushijimashin-machi, Toyama City, TOYAMA, 930-0856, JAPAN

TEL: +81-76-445-1571 FAX: +81-76-445-1581

E-mail : webmaster@npec.or.jp

< NPEC HomePage address >

Japanese	http://www.npec.or.jp/
English	http://www.npec.or.jp/index2.html
Chinese	http://www.npec.or.jp/index3.html
Korean	http://www.npec.or.jp/index4.html
Russian	http://www.npec.or.jp/index5.html



北東アジア環境情報広場

http://www.npec.or.jp/northeast_asia/index.html

Environmental Information Network

in North East Asia Region

http://www.npec.or.jp/northeast_asia/en/index.html



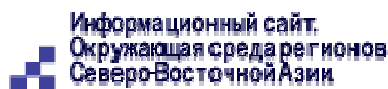
东北亚环境信息广场

http://www.npec.or.jp/northeast_asia/china2/index.html



동북아시아 환경정보광장

http://www.npec.or.jp/northeast_asia/korea2/index.html



Информационный сайт.
Окружающая среда регионов
Северо-Восточной Азии

http://www.npec.or.jp/northeast_asia/russia2/index.html